【アンケートのお願い！】大小路に自動運転バス 必要？不要？

永藤市長は、大小路に自動運転バスを導入する計画を表明しています(中面記事参照)。20億円を超す公的資金を投入する上、堺市の公共交通全体に影響が出るのは間違いありません。また、利便性や安全面で、人それぞれに感じ方は違うだろうと思います。そこでぜひ皆様の声をお聞かせください！中面の記事をご一読の上、ご回答頂ければ幸いです。

■質問①：大小路への自動運転バスの導入に、賛成？ 反対？ わからない？

■質問②：その理由を教えてください。

■質問③：現在の堺東駅～堺駅のシャトルバスで、何か困っていることはありますか？

下記のご意見欄(ＦＡＸ)か、メールでご回答ください。匿名でも結構ですが、ご連絡先を頂けましたら、必ずお返事させてもらいます。

メールアドレス
QRコード

【ポスティングのお手伝い大募集！】

年4回、議会活動報告を作成し、堺区内の(ほぼ)全戸に配布しています。そこでぜひ、このチラシをポスティングしてもらえないでしょうか？「10枚くらいなら」「マンションの集合ポストだけなら」等々、大歓迎です！クリーンな活動にぜひお力添えください。メール・LINE・電話等でご一報頂けると幸いです。(1ページ目右上参照)

オンライン市政報告会 開催しました

毎年各校区で開催している市政報告会が、コロナでできない…。ということで、初めてオンラインで開催しました。30名ほどの参加者の中、画面越しに市政報告、質疑応答、意見交換。思ったよりスムーズにやり取りができました。今後も実施していく予定です。ご希望があれば個別開催もいたしますのでご一報ください。

「もののはじまり」がカルタに

「もののはじまり何でも堺」と言いますが、いくつご存じですか？市民団体の方々が50以上の「もののはじまり」を調べあげ、カルタにしました。まちの歴史や文化を紹介するカルタは全国にたくさんありますが、「もののはじまり」だけでカルタを作れるのは堺だけでしょう。カルタは小中学校に寄贈された他、土産物店等で販売されています。

ご意見をお寄せください！

FAX：072-320-0103
Mail：takeshi@fuchigami.info

議員の仕事は、市民の声を市政に届けること。まずは「聞くこと」です。
皆様のご意見、ご不満、お困りごと、何でもお聞かせください。政策立案に活用させて頂きます。

お名前：　　TEL：

住所：

※匿名でも結構ですが、ご連絡先をご記入くださいましたら、必ずお返事いたします。

ふっちーのつぶやき（編集後記）

永藤市長は8月に公表した「ＳＭＩプロジェクト」で、ARTの導入によってウォーカブルな空間創出とモビリティショーケース化を進め、ウェルビーイングが向上するイノベーティブ都市を目指すそうです…。最近の堺市政は横文字だらけで、私にはちんぷんかんぷんなトゥデイこの頃です。

堺市議会議員（堺区選出・無所属）　2021秋号

ふちがみ猛志（たけし）議会活動報告 Vol.26

●1977年堺生まれ、堺育ち
●妻 娘11才 息子9才 6才
●堺市立錦小学校 卒
●堺市立殿馬場中学校 卒
●大阪府立三国丘高校 卒
●神戸大学法学部 卒
●堺市議会議員（2期目）
●文教委員会委員長
●保護司

ホームページ上のブログや、LINE、Twitterを使って活動情報を発信しています！

LINE@ はじめました。
LINE@
LINE ID @osz7708b
HP
Twitter

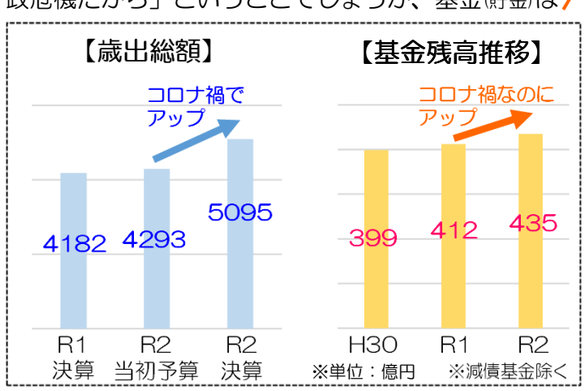
ふちがみ猛志 市政相談所
堺区新町2-4
小山電ビル2F-A1
TEL/FAX：072-320-0103
takeshi@fuchigami.info

ふちがみ猛志　検索

QRコードの読み取り方がわからない方はお電話などでお問い合わせください

コロナ禍で過去最大の決算

決算議会が終わりました。令和2年度の歳出総額は5,095億円、過去最大となりました。当初予算から約800億円の増加原因はコロナ対策で、そのほとんどは国から手当されています。一方、堺市の独自財源によるコロナ対策は、わずか7億円に留まりました。「財政危機だから」ということでしょうが、基金(貯金)は↗400億円超あり、その額は、令和2年度もさらに上積みされています。本来、基金は危機に対する備えですから、このコロナ禍こそ、切り崩してでも市民生活を支えるために使うべき時だと、私は思います。



財政はたしかに厳しいが

「財政危機脱却プラン(素案)」が公表され、おでかけ応援バスの縮小等、多数のサービスカットが盛り込まれました。高齢者のおでかけ応援は、経済効果に加え、高齢者の健康(=医療・介護費の縮減)にも繋がります。目先のお金に目を奪われ、逆に将来の財政負担を招かないか心配です。そもそも「おでかけ応援バスの拡充」という市長自身の公約にも反します。財政はたしかに厳しく、施策の見直しは必要ですが、市民生活に直結するもの、波及効果の大きいものについては堅持すべきです。議会で強く訴えて参ります。

おでかけ応援カード

3年連続の単年度赤字!! 大丈夫？ →はい、大丈夫です

「3年連続の単年度赤字」、永藤市長は「財政が厳しい」と話す度に、これを枕ことばのように使います。しかし、その額は200万円。堺市の歳出は約5,000億円です。たとえるなら、年間500万円支出する家庭が、20円の赤字を出したようなもの…。そもそも行政はお金を蓄えるのが仕事ではありません。危機への一定の備え以外は、むしろ使い切る(=市民サービスとしてお返しする)のが正しく、その意味でこの額の赤字は、絶妙な決算とも言えます。また一方で、基金(貯金)は23億円も↗積み増していますが、この積み増し額は財政上「歳出」として扱われます。つまり、仮にこの23億円を200万円だけでも減らしていれば、決算は赤字ではなかったのです。「3年連続の単年度赤字」の実態はその程度であり、財政危機をあおる言葉として使うのは、ミスリードです。

年間支出500万円。20円の赤字に大騒ぎのお母さんは、別の財布に2万円を貯めていた…

大小路に自動運転バスを導入！？

もっと→くわしくブログで

突然発表された自動運転バス

永藤市長は、堺東駅～堺駅間(大小路)に自動運転バスを導入する、SMI(サカイモビリティイノベーション)プロジェクトを発表しました。そして、今のシャトルバスがこれに切り替わる、南海バスではない新規事業者も候補となる、黒字路線なので投資を得られるはず、という見解を述べました。

8月10日市長記者会見にて

黒字だから新規参入？

一般的に、全国の多くのバス路線が赤字です。「一部の黒字路線の利益で多くの赤字路線を維持している」ケースは多く、南海バスも大なり小なりそのようです。乗客の多いこの路線を「黒字だから」と引きはがされてしまったら、はたして南海バスは他の赤字路線を維持できるのでしょうか。廃止や便数の削減に繋がりかねません。市長の発言は、公共交通全体のことを考えない軽率なものだと感じます。

堺東駅～堺駅を走るシャトルバス

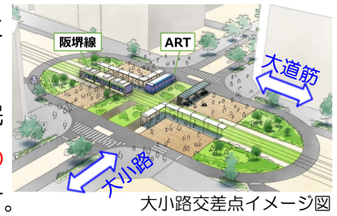
自動運転で何かよくなるか？

自動運転バスで、何かよくなるでしょうか。到着時間が早まるわけでもなく、便数が増えるわけでもありません。自動運転と言っても、交通量・駐車車両の多い都心では、無人運転は技術的に難しく、保安員が同乗しますから、経費削減(=運賃値下げ)にもなりません。堺市は、脱炭素化をメリットに挙げていますが、それならいまのシャトルバスを電動バスにすればいいだけです。バス停にピッタリつけられることもメリットだそうですが、それは20億円を超える公的資金を投入するほどのことでしょうか。

メリットを実感できない同計画(SMIプロジェクト)のイメージ図

大道筋が片道1車線に！？

市長は「東西交通改善」とも言いますが、今のシャトルバスと全く同じ区間を走って、何が改善されるのでしょうか。南海本線の西側(堺浜方面)や、高野線の東側(堺市駅方面)に乗り換えなしで行けるわけではないのです。また、大小路交差点を改造し、阪堺線の電停とバス停をくっつけ、乗り換えしやすくするそうですが(下図)、そのようなニーズがどれほどあるでしょうか。そのために大道筋を片道1車線にするそうで、地元住民の私にはデメリットの方が大きいと感じます。



大小路交差点イメージ図

自動運転バスは郊外の赤字路線に

自動運転バスは、都心の大小路ではなく、郊外の赤字路線の維持にこそ活用すべきです。交通量の少ない道ならば『無人の完全自動運転』も可能です。乗客がわずかな路線では、運転士1人分の人件費の影響も大きくなりますし、深刻な運転手不足の改善にもなります。自動運転のメリットが活かせるのは、都心より、郊外・過疎地であり、実際、全国の先進事例の多くが、過疎地でのものです。堺市でも郊外での利用を、と私は提案します。

茨城県境町の自動運転バス

まずは市民と事業者の声を！

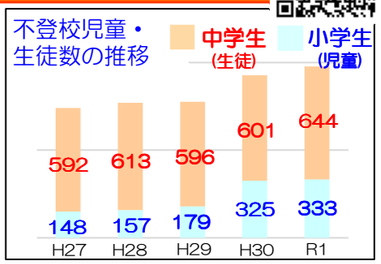
市長は「堺市は財政危機」と言い、おでかけ応援バスの縮減を打ち出す一方で、多額の予算を投じてこの計画を押し進めようとしています。この計画の作成にあたっては、地元住民や南海バスともろくに意見交換しておらず、独りよがりの計画にしか見えません。市長は「公共交通とは何たるか」を認識し、事業者や市民との対話からやり直してもらいたいものです。

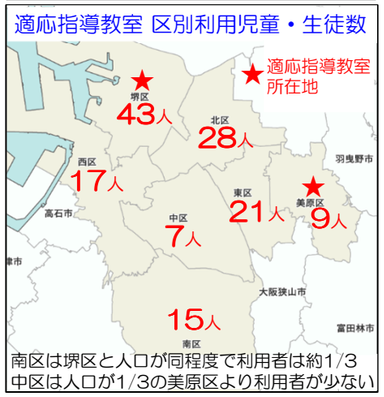
最終ページのアンケートにぜひご協力ください。

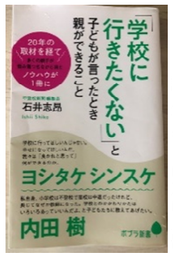
不登校の子の居場所「フリースクール」

もっと→くわしくブログで

不登校の子が増えており(右グラフ)、コロナ禍でさらに増加するとも言われています。堺市では、不登校の子が学校復帰・社会的自立に向け、小規模で学習・体験活動、教育相談ができる場として「適応指導教室」を設置していますが、それは堺区と美原区の２か所だけ。利用者数は区ごとに偏っており(右下図)、「利用したいのに近くにないので利用できない」という子がいるようです。一方、同じ機能を持つ民間の施設「フリースクール」もあり、文部科学省はこれを不登校の子の支援の場として位置付けています。しかし堺市教育委員会は、フリースクールと連携できていないばかりか、その数すら把握しておらず、必要な子に情報提供できていません。不登校問題の専門家の石井志昂さんは著書(右下写真)で、不登校の子の居場所であるフリースクールについて、子どもに情報提供しないのは「避難経路をえないことと一緒」だとしています。フリースクールと学校現場との連携・活用と、必要な子への情報提供を求めました。当局は連携の必要性を現場に周知する旨、答弁しました。







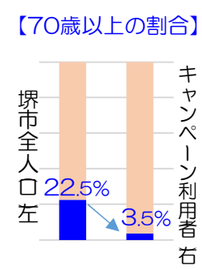
学校嫌いの子を持つ親に読んでもらいたい一冊

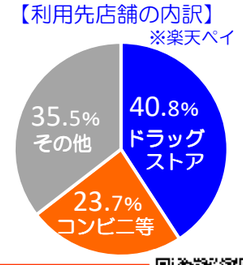
10億円の経済支援は有効だったか

もっと→くわしくブログで

「市内商業者の支援」を目的に、昨年秋に実施された「キャッシュレス決済20%ポイント還元キャンペーン」は、永藤市長の目玉政策でした。決算議会において、主に2つの問題を指摘しました。1つは高齢者の利用が少なかったこと(右棒グラフ)。これは当初から予想されたことでした。2つ目は、利用先の多くを大手ドラッグストアチェーンやコンビニが占め(円グラフ)、本当に市内商業者の支援になったのかということです。この指摘に当局は、対象店舗を市内に本社のある事業者や、小規模事業者に絞るなどの検討が、今後は必要だと述べました。今後、ICT社会の進展と共に、行政サービスの中でキャッシュレス決済が利用されるケースが、否応なしに増えることでしょう。ぜひ、今回の反省を活かしてもらいたいと思います。

キャンペーンのポスター





「4000万円超滞納・4年遅延」も議会に報告なし

(=市民)

もっと→くわしくブログで

大浜北町の約1haの市有地(通称:三角地)にホテル建設が決まったのは、2017年。「事業者が支払う土地の賃料は月300万円、完成予定は2020年夏」と議会に報告がありました。ところが今になっても三角地は更地のまま。議会で確認すると「事業が遅れ、完成予定は2024年に。賃料も１年以上滞納中」と。コロナ禍で仕方ない面もありますが、問題は、期限が大幅に過ぎているのに、問われるまで議会(=市民)にそれを報告しなかったこと。堺市の200万円の単年度赤字をことさら「危機だ」と強調する市長ですが、4000万円の滞納には呑気なものです。これが予定通り収められていれば昨年度は黒字だったのに…。この指摘に当局は「報告すべきだった」旨の反省の弁を述べました。不誠実な姿勢の改善を望みます。

ホテルアゴーラの最上階から見た三角地

完成イメージ図